

佐賀大学楠葉同窓会



なんよう



No.107
2018.4.1

平成30年度楠葉同窓会 総会のご案内

平成30年5月26日(土)「佐賀ワシントンホテルプラザ」で開催

佐賀大学楠葉同窓会の総会を次の通り開催します。

総会

- 日 時 平成30年5月26日(土) 16時～
- 会 場 佐賀ワシントンホテルプラザ 11階
「銀座八丁」
佐賀市駅前中央1丁目164番地
(TEL 0952-25-1111)
- 参加者 役員、代議員、顧問(会則11条)



平成30年度楠葉同窓会 交流会・懇親会のご案内

同窓生の絆を深めるとともに、学生に対しては社会人としての大事なこと、仕事に対する心構え、就職活動への助言等をおこない、コミュニケーション能力の向上に資する事を目的として開催します。

- 日 時 平成30年10月27日(土) 15時～
- 場 所 経済学部4号会館(懇親会会場は未定です。別途お知らせします)



第7回佐賀大学ホームカミングデーのご案内

佐賀大学校友会主催のホームカミングデーについて、本年度より全ての同窓生が参加対象となります。

- 日 時 平成30年11月17日(土) 14時～
- 場 所 本庄キャンパス(経済学部4号館、美術館)

At the time, Japan was watching Saga

～そのとき、日本は佐賀を見ていた～

ご存知の方も多いかと思いますが、幕末から明治にかけて活躍した佐賀の先人の活躍、佐賀の偉業を顕彰し、佐賀の「人」「技」を生み出した「志」を今に活かし未来へ繋げていくために、「肥前さが幕末維新博覧会」が平成30年3月17日(土)に始まりました(来年の1月14日まで)。期間中は佐賀市城内エリアをメイン会場に、県内各地で佐賀の歴史、文化、食、アートを楽しむことができます。

早速、市村記念体育館の中にメインパビリオンとして設置された「一歴史と未来をつなぐ架け橋—幕末維新記念館」に行ってきましたので、その魅力を皆さまにお伝えさせていただきます。所要時間は約36分、テーマパークのアトラクションのように、あらかじめ決まった時間(9分に1回)に40名ずつ入場するスタイルで、入口の扉が開くと幕末維新期の佐賀にタイムスリップ、映像で、舞台上、幕末維新期の佐賀を体感することができました。

◇第一場「幕末維新」体感シアター

扉が開くと、目の前には縦3.3メートル、横15メートルぐらいの巨大モニター。そこでは150年前の鍋島直正公を中心とした激動の佐賀の様子が、映像でドラマティックに再現されていました。佐賀が持つ技術、人が当時の日本に、そして世界に、どれだけの影響を及ぼしていたのか、具体的に知り、感じることができました。



◇第二場「技」からくり劇場

大砲や蒸気船など、当時の佐賀の先進的な「技」を生み出した技術者と直正公の思いを、パフォー



マーによる生の演技と映像が一体となったショー仕立てで、感じる事が出来ました。

◇第三場「人」賢人ラウンドシアター

円形のスペースの壁面に設置された8つのモニターが連動して、佐賀の7賢人を紹介、まるで恩師を囲んで、卒業生同士が当時を語り合っているような、そんな等身大の雰囲気を感じることが出来ました。



◇第四場「志」ことのは結び



ここでは、各シーンで先人の「志」に感化された来館者一人ひとりの思い、それを楠の葉をモチーフとした「ことのは」に書きつけ、映像上の大木に結びつけることができました。終了時には、たくさんの「ことのは」で壁一面が覆われていることでしょう。

以上が「幕末維新記念館」のご紹介です。この他にも、佐賀発祥で武士の心得を現した「葉隠」を、現代の日常生活に役に立つ「心構え」として分かりやすく紹介している「葉隠みらい館」や、4月16日(月)には大隈重信や江藤新平などの偉人を数多く輩出した藩校「弘道館」を紹介し、その学びを体験できる「リアル弘道館」もオープンします。ぜひ、一度と言わず何度でも足をお運び下さい。

And now Saga is watching the future ~そして今、佐賀は未来を見ている~

坂田 智宏(経営・昭58入)

「見えない 世界遺産、 みえつ」誕生

平成27年（2015）7月、佐賀にとって待望の世界遺産が誕生しました。それが「明治日本の産業革命遺産」です。その構成資産の一つが、佐賀市（川副町・諸富町）にある「三重津海軍所跡」です。

三重津海軍所とは、幕末佐賀藩が整備した西洋式海軍の拠点。佐賀藩海軍の創設は、他藩に先駆けて成功した実用反射炉建設などと共に、鍋島直正公が幕末に取り組んだ近代化事業の一つです。ここに整備されたドライドックの遺構は日本最古のものであり、建造された「凌風丸」は国内初の実用蒸気船であったことなど、海軍所で行われた様々な活動は、国内外から高く評価されています。

登録以降、多くの方にお越し頂いております。そして、予備知識無しで訪問された皆さん、驚きつつ口を揃えてこうおっしゃいます。

「えっ？ここが世界遺産？何もないじゃないですか！」

姫路城や古都京都などのイメージを持って訪れた人がそう感じるのには無理ありません。当時の様子を示す痕跡の多くは、今は地下に埋まっているのですから。



しかし、心配は無用です。実物がお見せできない代わりに、当時の様子をバーチャル体験できる「みえつスコープ」を、遺跡に隣接する佐野常民記念館で提供しております。これを携えて遺跡を歩けば、幕末の三重津海軍所にタイムスリップ。

また、現地で必ず体感していただきたいのは、江戸時代から引き継がれてきた風景です。川や港や街並み、葦の群生は、当時の様子を今に伝える貴重な歴史遺産であり、三重津海軍所を語る上では欠かすことのできない大切な要素なのです。

百聞は一見にしかず。佐賀にお越しの際には、佐賀県初の世界遺産「三重津海軍所跡」を訪ねてみてください。確かにぱっと見は地味ですが、知れば知るほど楽しくなる、人に自慢したくなること請け合いです。また、せっかく海沿いの町にくるので、海苔のお買い求めはお忘れなく。

西川 末実（経済・昭49入）
協力 佐賀市役所 三重津世界遺産課
課長 木島 慎治 氏



三重津海軍所跡・佐野常民記念館（展示時間：9：00～17：00（月曜休館・祝日の場合は翌日））
佐賀市川副町大字早津江津446-1（問い合わせ：0952-34-9455）

同窓会長賞を受賞して ～ゼミ活動の効用最大化に挑む～

経済学部経済学科 児玉 頼子



今回の受賞理由をザックリ紹介すると、「ゼミ活動を真面目にやった」です。イベントの企画運営、アンケート作成・収集、後輩の手伝いなど、何でもかんでも手を出して成長させてもらい、むしろ私がいただいたものの方が多いのに、このような賞をいただき、申し訳ないような気持ちすらあります。

とはいえ、もちろん全部が良い環境ではなかったし、しんどいことや納得のいかないことはトイレに流してキレイサッパリしたいぐらいあります。一緒に活動したゼミ生に対しても、よく苛立ちを覚えていました。それでも最後に「大好き大好き楽しい!!!」と思えたから、やってきたこと全てが正解になりました。与えられた環境でいかに楽しめるか、力をつけていけるかは個人の問題だと思います。どんな環境でも、自分で頑張るための糧を見つけ、最大限に利用してやってください!!!

最後に、今の自分を作ってくれたのは、亀山先生はじめ先生方、ゼミ生、友達、協力していただいた全ての方々です。偉そうなことばかり書いていますが、私が一人で作り上げたものは1つもありません。活動する場をいただき、見て、動いてくれる人がいて成り立つものばかりで、この環境があったからこそ成長することができました。心から感謝しています。これからは、いただいたものを大切に、自分の力でさらに磨き上げていきます。4年間で色々な経験ができましたが、その分できないことや知らないことも増えていっています。まだまだ学ぶことは多くあるようなので、これからが楽しみです!!



支部だより

◎唐津地区会総会・懇親会に出席して

県内の各地区の組織化については、以前より組織化されている有朋会のメンバーの方々のご尽力によるところが大きく、2月10日(土)午後2時半より唐津市民会館4階会議室での総会は有朋会の総会に引き続き開催される事になった。

総会は、会長である松本範順氏(37年入学経済)「佐賀大学の現状を少しでも理解できるように努め、同窓会も微力ながら協力の姿勢を打ち出していこう」との力強い挨拶で始まり、その後役員改選が行われ新会長として農学部の中草氏に引き継がれた。

記念講演は「佐賀大学の過去現在未来～保健管理センターでの相談経験から～」の演題で保健管理センター長の佐藤武氏からプロジェクターを活用して熱く語ってもらった。参加者からは「大学の内情を知りより親近感が深まっ



た」と好評であった。

その後場所をビュッフェレストラン「バレッタ」に移動し懇親会が行われ、初回に比べて遙かに多い30名の参加で賑やかな懇談の場となった。

ちなみに文理からは藤原滋満(29経済)・金納威史(37経済)・佐伯道昭(37化)・松本範順(37経済)・岩田康夫(39物)の5名、経済からは斧山裕一(42経)・小形昌和(51管)・松本学(52経)・櫻庭佳輝(53経)・中村勝(63経)の5名であった。

江口 洋一(経済・昭44入)

◎三養基地区会総会・懇親会に参加して

3月4日(日)に吉野ヶ里温泉卑弥呼乃湯で開催された。2回目の開催で本部からの来賓以外は前回の11名から15名に増えており、今後とも徐々に隆盛になることが期待できる雰囲気であった。

楠葉同窓会からは、昭和26年入学文理の中島宏大先輩と昭和51年入学管理の荒木昌史氏の2名であったが三養基地区には100名近い同窓生



がいるとのことであり、次回が楽しみである。

八谷会長(有朋会)挨拶の後、和やかな雰囲気の中出席者全員の近況報告がなされ、その後、「巻頭言」及び「南に遠く」を来賓の一人である理工学部副会長の島氏の音頭と振り付けで紹介された。この青春寮歌については、各地区・各支部での集まりの際には必ず歌われるように全学同窓会において普及に努められており、有志の方々による「巻頭言」の練習が行われている。

また、最後は全員で佐賀大学学生歌「楠の葉の」を、出席者の一人のハーモニカの伴奏に合わせて高らかに唱和した。たまたま、作曲者「坂口清映」氏の娘さんが佐賀新聞に投稿された「父の供養になった青春寮歌祭」の記事も紹介され、まさしく歌によって青春時代が呼び覚まされたところであった。

江口 洋一(経済・昭44入)

◎佐賀大学同窓会 鹿児島支部総会・懇親会

平成30年1月27日(土)18時から、鹿児島市「レクストン鹿児島」において、鹿児島支部総会・懇親会が開催され、同窓会本部から宮尾同窓会副会長(有朋会会長)、小池農学部同窓会副会長、島理工学部同窓会副会長、平尾理工学部同窓会理事、西川楠葉同窓会副会長の5名が出席しました。

鹿児島支部会員は、竹下顧問、上田支部長を含め14名の出席でした。そのうち楠葉同窓会メンバーは文理学部及び経済学部卒の7名の参加がありました。

上田支部長あいさつの後、宮尾同窓会副会長あいさつ、竹下顧問の乾杯と続き、佐賀から持参した「悠々知酔」や地元の焼酎を楽しみながら、近況を含めた自己紹介などがあり、皆さん

テーブルを回りながら話に花が咲いていました。

なお、次年度からは、第三土曜日に開催することが確認されました。

西川 末実(経済・昭49入)



東京での経験を 地元へ還元

平成17年度経済学部経営・法律課程入
倉富公認会計士・税理士事務所

所長 倉富孔太



「東京での経験を地元へ還元」。私が佐賀を出てから唯一意識し続けていることです。公認会計士の資格を取るべく大学の講義中も電卓をたたいていた私ですが、決定的なきっかけになったのは地方自治体の経営分析をテーマにした卒業論文。地元多久市を軸に、財政再建団体に指定された北海道夕張市などを比較自治体を選定して行いました。論文自体の出来はともかく、“このままでは多久市は夕張市の後を追うことになる”と危機感を強くしたことが今日につながっています。

大学卒業後は東京に出て、某大手監査法人で6年間、経営者と伴走するスタンスの会計事務所で3年間経験を積んできました。前者ではトップダウンの視点、組織構造と少しの度胸を、後者では経営に直結する経営者・従業員の悩みや関係性、ステークホルダーの構造的あるいは潜在的な問題、事業自体の採算性、事業承継や再生・廃業など様々なことを学ばせて頂いています。そして、秒単位で刻々と変化する企業はやはり生き物であることを再認識しているところです。

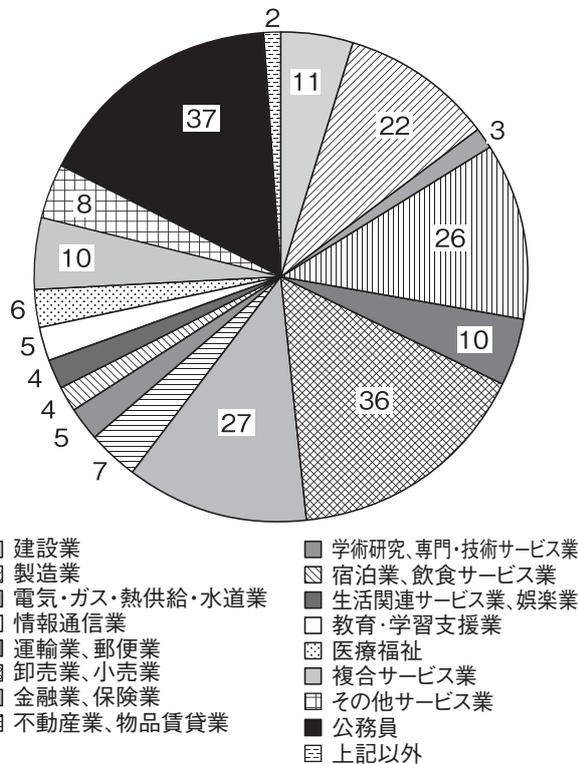
思い返せば人、環境、タイミングなど、本当に運が良かったと感じます。両親はもちろん、進学を勧めて頂いた高校の校長先生、公認会計士という職業選択を提示して頂いたゼミの教授、転職活動中に声をかけてくれた監査法人時代の先輩など、挙げればキリがありません。また、去年の11月に仕事の関係で私が師事している先生の同級生の御宅を訪問する機会がありましたが、その際の「あいつ（先生）には、同級生の中で一番最後に死んでほしい」という言葉にも非常に衝撃を受けました。私は、佐賀県多久市で生まれたことも1つの縁だと感じていますし、人生を終えるまで人様の役に立ち続けたいという思いは年々強くなっています。

去年9月末に佐賀で開業して以降、東京と佐賀を行き来していますが、その度に発見があります。例えば、もともとは県外で経験を積み、地元へ貢献するためあるいは地元で働くために開業されている店主の方が意外にも多くいらっしゃるということです。私も微力ではありますが専門家として、そういった方を含む地元企業に対して本質的に役に立つことで佐賀に貢献できれば、こんな嬉しいことはありません。

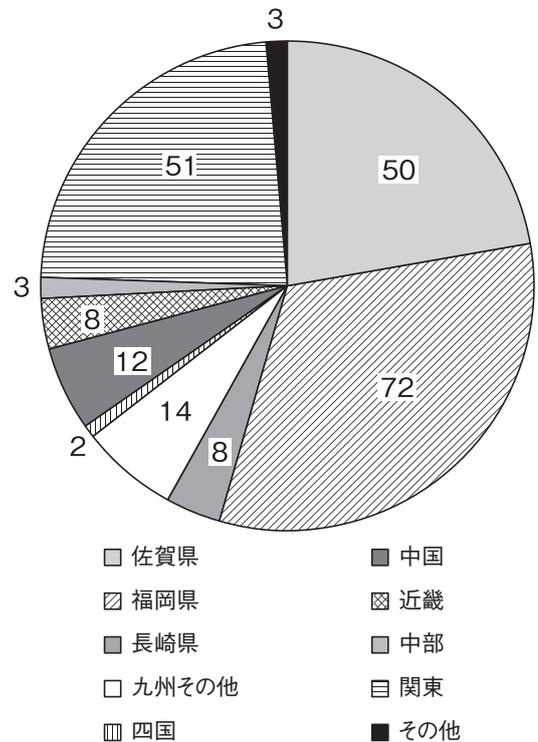
私が最も尊敬する経営者、伊那食品工業株式会社（長野県伊那市）の塚越寛会長が経営上大切にされている「年輪経営」という考え方や、江戸時代末期の篤農家である二宮尊徳翁の「遠きをはかる者は富み 近くをはかる者は貧す」という言葉を常に意識しながら、今後も1つ1つ歩を進めていきたいと思えます。

平成29年度 経済学部就職状況

産業分類別就職者



地域別就職者



先輩との交流は、後輩たちの心の支え —就職状況は堅調—

経済学部就職委員長 平地一郎

楠葉同窓会の皆さま、経済学部学生の就職のためのご支援を頂いていることに、心から感謝申し上げます。今年3月に卒業した学生たちの就職も堅調でした。就職委員を始め教員一同、安堵しているところです。

こうした就職状況の堅調さは、近年、新規採用市場が好転していることもありますが、しかし本学部の多くの学生がチャレンジしている企業での求人倍率は依然として1.0を切っており、就職活動の困難さは変わりありません。厳しい状況の中で、学生の就職活動が順調に進んでいるのは、楠葉同窓会のご協力があったることと思います。

50周年記念経済学部ホームカミングデー（平成27年10月）以来積み重ねてきた、楠葉

同窓会の皆さまと本学部学生との交流会は、就職にのぞむ学生の自信を作りだしています。先輩との交流は、後輩たちの心の支えになっています。また、初年次学生向けのOB・OG講話や、2～3年次生向けの業界・業種研究においても、皆さまからの並々ならぬご支援を頂き、感謝の念に堪えません。

学部就職委員会も、学生に対するいっそうの就職支援に努めているところですが、昨年その一つに、卒業生によるキャリアアドバイザー制度を立ち上げました。先輩の皆さまと後輩たちとの日常的な交流を図り、さらに充実させていく所存です。どうぞ、ご支援をよろしく願います。

定年帰郷 地域を耕す

対馬を終の棲家と決め、定年帰郷して5年が過ぎました。帰島早々、行政区毎の「地域計画」づくりを進めていた対馬市の集落支援員になり、地元、久田地区の「地域づくり計画書」を皆で策定し、具体的な取り組みを始めています。

その一つにアグリパークプロジェクトがあります。これは1ha程の耕作放棄地と里山を老若男女が集える空間としてコミュニティベースで作上げようというものです。昨年3月から取り組みが始まり、隔月ペースのワークショップを通じて、農地と水路の復元、猪防止柵の設置、対州ソバの栽培と収穫祭の開催等を行いました。

この取り組みは、地域の食資源の掘起こしと利活用を目指す市の未来創生課と、高齢者の引籠もりや認知症予防の場づくりを目指す地域包括ケアに、アグリパークとして久田地区の耕作放棄地を提供することに端を発し、社会福祉協議会やJA、森林組合等の協力支援を得るとともに、東京からは明治大学を中心に毎回5、6人の学生が参加しています。

1年を経過した今、地区民にも知られるようになり、神社奉納用の麦の栽培依頼や、高精度のイチジク・黄色野イチゴの苗木の持込み参加、対馬蜜蜂の巣箱の提供、ガラビ（山ぶどう）の挿枝の提供等がなされており、本来目指した市民手づくり型のアグリパークへの動きが始まっています。

楠葉同窓会副会長 長 安 六（文理・経済・昭40入）



事務局日誌（印は佐賀大学同窓会、◇印は楠葉同窓会、無印は母校佐賀大学）

- H29. 11. 1◇会報「なんよう106」発行
 10・佐大同窓会「長崎支部会」 ホテルニュー長崎
 11・佐大同窓会「東海支部会」 名鉄グランドホテル
 15・キャリアデザイン講座 講師：楠田詞也氏（経済学部）
 17・佐大同窓会「諫早支部会」 ホテルセンリユウ
 18・佐大同窓会「佐賀県青春春祭歌祭」 エスプラッツホール
 22・キャリアデザイン講座 講師：江副真弥氏（日新小）
 23 さがを創る大交流会 佐賀県総合体育館
 25 佐賀大学ホームカミングデー 佐賀大学経済4号館
 25・佐大同窓会「伊万里地区会」 伊万里公民館
 25・佐大同窓会「武雄地区会」 八百重
 29・キャリアデザイン講座 講師：平尾泰博氏（佐賀大学地域創生）手寫誠氏（前川製作所）
 12. 4◇楠葉同窓会「経済学部との意見交換会」 菱の実会館 多目的室
 5◇楠葉同窓会 40周年史編集会議 小会議室
 6・キャリアデザイン講座 講師：井上泰宏氏（西鉄エージェンシー）
 13・キャリアデザイン講座 講師：三古野健滋氏（経済学部卒）
 14・佐大同窓会「代表役員会」 佐賀大学菱の実会館 多目的室
 14・佐大同窓会第6回学習会 講師：中村和博先生（経済学部長）
 H30. 1. 1・佐大同窓会会報「楠の葉」No. 28号発行
 11◇楠葉同窓会「役員会・新年会」 楊柳亭
 27・佐大同窓会「鹿児島支部会」 レクストン鹿児島
 2. 10・佐大同窓会「唐津地区会」 唐津市民会館
 15・佐大同窓会「代表役員会」 佐賀大学菱の実会館 多目的室
 15・佐大同窓会第7回学習会 講師：有馬進（農学部長）
 27◇会報「なんよう No. 107」編集会議
 3. 4・佐大同窓会「三養基地区会」 吉野ヶ里温泉 卑呼の湯
 13◇楠葉同窓会 40周年史編集会議 小会議室
 14◇楠葉同窓会「役員会」 菱の実会館 多目的室
 23 佐賀大学平成29年度学位授与式
 23・佐大同窓会「同窓会会長賞」表彰
 28・佐大同窓会「佐大教職員支部会」 菱の実会館 多目的室

編集後記

2月に平成3年経済学部卒（87E）の親しい友人12名が集まり同窓会を行いました。それぞれの結婚式で集まったこともありましたが、ほとんどのメンバーとは20数年ぶりの再会となりました。

集合場所の佐賀駅に着くまでは、学生当時のように楽しく過ごせるか多少不安がありましたが、全くの思い過しでした。会った瞬間から当時の話題で盛り上がり、移動の車中、宴会中も話が尽きることはなく本当に楽しい時間を過ごすことができました。

面白かったのは、それぞれのキャラクターも全く変わっていませんでした。的外れな事を言って突っ込まれる者、くだらないダジャレを言う者等々……50歳を過ぎても性格って変わらないものだなあと実感しました。

宴会終了後、時間がある数人は佐賀大学の構内や赤松町周辺を散策しましたが、遠方から集まった友人は様変わりした正門周辺や広くなった大学東側道路に大変驚いていました。散策の最後は当時通っていた焼き鳥屋さんで二次会。お店は移転して雰囲気は変わっていますが安くて美味しい思い出の味を堪能しながら時間を忘れて楽しめました。

遠方から集まってくれた友人たちにこの場を借りて感謝したいと思います。ありがとう！また近々会いましょう！

坂本 裕三（経済・昭62入）

発行 佐賀大学楠葉同窓会
 佐賀市本庄町 佐賀大学菱の実会館内
 TEL 0952-23-1253
 FAX 0952-25-5700
 E-Mail: dousoukai@sadai.jp

発行者 江口 洋一（経済・昭44入）
 編集 松尾 和俊（経済・昭58入）
 代表者
 郵便振替 [01760-9-25635]